

2 漁業生産

1) 総漁獲量： 熱帯、亜熱帯地方においては一般に生物相は豊富であるが個々の種は量的に多くはないのが普通である。昔から高級魚として広く親しまれているハマフェフキを主体にするタイ類は殆んどが一本釣、底延縄等の漁具漁法で100m以浅の沿岸水域で漁獲されている。5トン未満船での一本釣、底延縄漁業による総生産量と年間一隻当りの漁獲量を表-2に示した。これからみると漁獲量は幾分上昇傾向にあるが、1隻当りの漁獲量には変化が目立たない。従ってこの増産は漁船の増加、漁具等での努力量の増加によるものと思われる。更に市町村地域別のタイ類生産状況をみたのが表-3である。カツオ船、マグロ船による漁獲物を除けば殆んどが沿岸水域での漁獲物であることから各地区の魚類総生産量からカツオ、マグロ、カジキ、フカ等を除いた魚類生産量の中でタイ類の占める割合(%)を示した。タイ類の殆んどが釣によるものであり、多獲性の魚でないので年間総生産量は600トン～1000トンの範囲で年変動して居るし、又、タイ類の占める比率も各地区の漁業種類を反映している事が伺われる。即ち北部地区はタイ類は10%前後であるが、これは本部、伊江島を中心に行なわれている追込網による漁獲物が主体をなすからである。中部は釣漁業が主体をなし、その他は雑漁業が行なわれているため20～30%を占め、また南部は比率の面では10%以下と低いが量的には最も多い。比率が低いのは那覇地区を中心とするフェダイを対象とする深海一本釣漁獲物が主体を占めるからである。宮古地区はカツオ漁業が軸であるが、その他では釣漁業が主体であることから、その比率も20%台にある。八重山地区もカツオ漁業が主体であり、その他ではリーフ内礁湖水域での刺網によるブダイ類が多いが、近年釣による漁獲物が増加の傾向にある。

鮮魚卸売市場で取扱われている魚類の内、特に沖縄県漁連及び那覇地区漁協の両市場でのカツオ、マグロ、カジキ、フカ等の占める率は高いが、これら漁獲物を除いての6ヶ所の市場で取り扱われる魚類総量中タイ類の占める比率は下記の如くで20%前後である。

昭和	40	41	42	43	44	45	46	47	48
	20%	17%	9%	18%	18%	19%	20%	22%	16%

その取扱量を年度別組合市場にみたのが表-4であるが、400～500トン台で停滞状態にある。前述のように種類数が豊富な割には個々の種の数量が少ないことから統計上タイ類中にはタイ科、フェダイ科、フェフキダイ科、メイチダイ科等各種が包含され、本調査の対象種であるハマフェフキ単独種の漁獲量の掌握は困難であり、推定する以外にない。推定の基準とすべく、四市場のセリ帖から分類集計したのが表-5である。那覇地区漁協の主要漁獲物はマグロ、フェダイ類であるので、特に後者は比較的深海の漁獲物であり、混獲されるタイ類は少いが他地区から搬入されるものも含めて10%前後であるが年平均25トンを取扱っている。

糸満漁協では5トン未満船の釣による漁獲物が主体であるため、その比率は高く20～30%台にあり、年平均28トン取扱っている。知念、勝連両漁協は中城湾を背景にしているの

で刺網、釣等を軸とし漁獲量は少ないが、夫々20%、29~45%で5~6トンの漁獲をしている。地域によってタイ類中に含まれるハマフエフキの量は異なるが、沖縄の沿岸漁場の特性、各地域の漁業形態等から糸満、勝連、知念の漁業形態から生ずるタイ類中に含まれるハマフエフキの比率(20~30%)は他地域へ適用しても、それ程の誤差はないと思われる。以上の事から県下のハマフエフキの生産量を推定すると下表の通りである。また、昭和47年の海域別漁獲割合をみると県南部30.5%で最も多く、次いで中城湾、金武湾海域で29.1%、八重山16.9%、県北部9.9%、宮古8.9%、県中部西側海域4.5%の順となっている。

表-2 沿岸漁業(5トン未満船)における一本釣底延縄による漁獲量及び一隻当漁獲量(単位:トン)

年	タイ類生産量	ハマフエフキ生産量 20%~30%	一本釣		底延縄		
			漁獲量	一隻当漁獲量	漁獲量	一隻当漁獲量	
40	795トン	159~239トン	39	11590トン	1.4トン	1770トン	1.2
41	702 "	140~211 "	40	13500	1.5	2610	1.6
42	601 "	120~180 "	41	12900	1.4	267	2.5
43	688 "	138~206 "	42	13080	1.4	257	2.0
47	1095 "	219~328 "	43	11320	1.0	286	1.6
48	787 "	157~236 "	44	13130	1.1	510	2.3
			45	13330	1.2	446	1.7
			46	13510	1.1	560	2.0
			47	18010	1.8	566	1.9
			48	17540	1.4	904	2.5

表-3 各地区別タイ類生産量及びカツオ、マグロ、カジキを除いた総魚類生産量に対するタイ類の比率(単位:トン)

年	北部生産量(%)	中部生産量(%)	南部生産量(%)	宮古生産量(%)	八重山生産量(%)	計
40	79 (12)	105 (22)	376 (8)	125 (20)	110 (10)	795
41	92 (12)	116 (22)	289 (7)	129 (17)	76 (8)	702
42	106 (11)	117 (21)	214 (3)	84 (13)	80 (7)	601
43	103 (12)	140 (24)	261 (3)	118 (20)	66 (7)	688
44	NA	NA	NA	NA	NA	NA
45	"	"	"	"	"	"
46	"	"	"	"	"	"
47	131 (10)	259 (30)	422 (5)	98 (20)	185 (8)	1095
48	129 (14)	251 (28)	193 (5)	88 (24)	126 (13)	787

註 NA:資料なし 北部:1市、1町、12村 中部:3市、8村
南部:1市、2町、12村 宮古:1市、2町、2村 八重山:1市、2村

表-4 鮮魚卸売市場におけるタイ類取扱量(昭和40~48年)単位:トン

	沖縄県漁連	那覇地区漁協	糸満漁協	港川漁協	勝連漁協	石垣漁協	合計
40	42	164	91	80	38	107	522
41	38	200	61	35	36	40	410
42	33	189	59	9	28	7	325
43	33	247	78	8	51	1	418
44	38	219	116	7	43	3	426
45	66	224	156	5	35	4	490
46	94	253	122	8	31	6	514
47	89	373	100	3	36	2	603
48	77	301	69	4	NA	6	457

資料:沖縄の水産業S40~46年 沖縄総合事務局資料47、48年